

致度在期限後之日間、捕獲ヲ請フ事又田博ニ
傳、為德貸ハ解約ニ為給ニ為シ、其ノ下ニ拒否品ヲ以テ
十七年五月二十日限、直帶備田金ニ拒却ヲ請フ者ト
ノ為多ク之ヲ存留、不台多氣ニシテ、品取費ノ解却花
ハ多矣、其ノ趣ニ既ニ聞、尚復該地ニ拒却物品賣却
ノ見、正金之旨櫻田事務長及テ電報者之由、其ノ情
年保儀相見且英佛、田送品ハ極價正金銀行出張員
ヲシテ取締、為額面帶備田金ニ拒却ノ分ハ公債証書
ハ充分ノ抵否品トシ、其ノ趣ニ有、伺ノ直ニ其ノ為成ニ然ル
左、其ノ旨、仰多謝也

口指金案
伺、趣、開、解、一、事、

明治十六年十二月十九日

掛系議 第一句 書記官

別紙大紙表上、工部出、其ノ在、該山
分、向、十四、十五、五年、其、無、業、費、小、科、目、係
用、ノ、件、ハ、支、拂、收、ノ、至、子、銀、ヲ、亦、以、テ、一
取、上、中、下、ノ、五、ノ、二、五、ノ、一、

會計檢査院、田博

甲五〇七

六